

- 38 日照りがその水の上になり、それは潤れる。そこは刻んだ像の地で、偶像に狂っているからだ。
- 39 それゆえ、荒野の獣が山犬とともに住み、だちょうがそこに住む。もはや永久に、人は住まず、代々にわたって、住む者はいない。
- 40 神が、ソドムとゴモラと、近隣の町々を滅ぼしたように、——【主】のことば——そこには人が住まず、そこには人の子が宿らない。
- 41 見よ、一つの民が北から来る。大きな国と多くの王が、地の果てという果てから奮い立つ。
- 42 彼らは弓と投げ槍を固く握り、残忍で、あわれむことがない。その声は海のようにとどろく。娘バビロンよ。彼らは馬に乗り、一つとなって戦列を整え、おまえを攻める。
- 43 バビロンの王は、彼らのうわさを聞いて 氣力を失い、苦しみが彼をとらえる。産婦のような激痛が。
- 44 見よ。獅子がヨルダンの密林から 常に潤う牧場の上に来るように、わたしは一瞬にして彼らをそこから追い出し、選ばれた人をそこに置く。だれがわたしのようであろうか。だれがわたしを呼びつけるだろうか。だれがわたしの前に立つことができる牧者であろうか。」
- 45 それゆえ、聞け。バビロンに対して立てられた主の計画を。カルデア人の国に対して練られた策を。必ず、彼らは、群れの中の小さいものまで 引きずって行かれ、必ず、彼らの牧場は彼らのことで恐れ惑う。バビロンが捕らえられる音で地は震え、その叫びは国々の間にも聞こえる。

\* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



希望の光バプテスト教会

2022年 7月 31日 (日)

礼拝メッセージノート

「バビロンへの預言Ⅲ～異邦人への裁き⑦」

エレミヤ書講解-93

エレミヤ書50：29～45

小野寺 望 牧師

### 【 エレミヤ書 50章 】

- 29 バビロンに対して、射手を呼び集めよ。すべて弓を引く者を。これを囲んで陣を敷き、一人も逃すな。その行いに応じてこれに報い、これがしたとおりに、これにせよ。【主】に向かい、イスラエルの聖なる方に向かって 高ぶったからだ。
- 30 「それゆえ、その日、その若い男たちは町の広場に倒れ、その戦士たちもみな、黙らされる。——【主】のことば——
- 31 高ぶる者よ。見よ、わたしはおまえを敵とする。——万軍の神、【主】のことば——おまえの日、わたしがおまえを罰する時が来たからだ。
- 32 そこで、高ぶる者はつまずき倒れ、これを起こす者もない。わたしは、その町々に火をつける。火はその周りのものすべてを焼き尽くす。」
- 33 万軍の【主】はこう言われる。「イスラエルの子らとユダの子らは、ともに虐げられている。彼らを捕らえて行った者はみな、彼らを固くつかんで解放することを拒んでいる。」
- 34 彼らを贖う方は強い。その名は万軍の【主】。主は、必ずや彼らの訴えを取り上げて、その地を憩わせるが、バビロンの住民は震え上がらせる。
- 35 「剣がカルデア人に下り、——【主】のことば——バビロンの住民、その首長たち、知恵ある者たちに下る。
- 36 剣が易者たちにも下り、彼らは愚かになる。剣がその勇士たちにも下り、彼らは氣をくじかれる。
- 37 剣が、その馬と車、そこに住む混血の傭兵にも下り、彼らは女たちのようになる。剣がその財宝にも下り、それらはかすめ取られる。

(4ページへ続く)

## ◆はじめに

### 1.現代の「高ぶる者」

(1) 安倍元総理襲撃事件と統一教会との蜜月を考える。

①いかに正しい動機があろうとも、偽メシアと繋がるなら、恐ろしいことである。

※保守政党として、こんなカルトと平気で繋がるのは無知以外にない。情けない。

\*教祖文鮮明は、自らを再臨のメシアとし、その教えを神の啓示とする偽メシアである。

②神はご自身の義を示し、罪・過ちを明らかにされるお方である。

### 2.知らない間に影響下に置かれている。

(1) 黙示録における「反キリスト」による宗教や政治支配は、実際に起こり得る。

(2) 霊の目が閉ざされた者には、出来事の本質が理解できないだろう。

①カルトを批判する善意は、ある時真っ当なキリスト教を責めることになる懸念。

\*聖書的真理（創造論や性、罪人と地獄）にも、反発を生むことがあり得る。

\*神の真理より人間的判断を上位に置いたら、それはすでに「高ぶる者」となっている。

②悪魔は世のあらゆるものを用いて、神のことばとその計画に挑戦する。

## ◆メッセージのアウトライン紹介とゴール

### 「高ぶる者」バビロンの悲劇

\*このメッセージは、バビロンへの預言から、神の計画の詳細を学ぶものである。

## I バビロンの傲慢（29～38節）

### 1.射手たちの招集

(1) バビロンから逃れる者が無いように、射手が呼び集められる。

①理由：傲慢な態度で【主】を侮ったバビロンを立ち滅ぼすため。

②バビロンは万軍の主を敵に回す、「高ぶる者」である。

③神は敵に対する勝利の時を、すでに決めておられる。「時が来た」

(2) エレ50：30は、49：26（ダマスコへの宣言）とほぼ同じ。

(3) 高ぶりある者は、【主】がもたらす火によって、すべて焼き尽くされる。

### 2.捕囚民の開放

(1) イスラエルとユダの民は、バビロンに捕らえられている。

①捕囚に次ぐ神の計画「解放」に逆らうことは、神への反抗である。

(2) 彼らは「彼らを贖う方」によって解放され、約束の地に帰還する。

①捕囚からの解放とも関連 ②究極的には「メシアご自身」を指す終末預言。

### 3.剣・干ばつの用意

(1) 35～38節には、バビロンを滅ぼす「剣」が5回も出てくる。

(2) そして干ばつ（日照り）が続く。

(3) 剣が下る対象：①バビロンの住民、②その首長たち、③知恵ある者たち、

④預言者たち（偽預言者）、⑤そして兵士たち、⑥馬と馬車、傭兵部隊。

(4) その結果バビロンは貧しくなり、完全に疲弊した地になる。

①神への高ぶりと偶像に狂った都市は、滅ぼされる。

## II ソドムとゴモラ（39～46節） \*ソドムは墮落の象徴 エゼ16章、マタ11：2

### 1.地の荒廃の約束

(1) バビロンは、荒野の獣が山犬と共に住み、だちょうがそこに住む地となる。

(2) その地（現在のイラク）は、いつまでも人が住まない荒廃した地になる。

(3) この預言は未だ成就していない。

①大患難時代に悪魔の手先となり最悪の罪を犯した後、与えられる裁き。

\*黙19：3が表す地がここである。

\*その罪は反キリストの手先となり、他国も扇動してイスラエルと神に盾突くこと。

②豊かな収穫が約束される千年王国の間、煙がくすぶる裁きの象徴として残される。

③そこにはメシアの祝福はなく、悪霊が閉じ込められる場とも言われる。

\*この箇所の獣は悪霊を表す比喩である（イザ13：21、黙9章も同様）

### 2.北からの刺客

(1) 「見よ。一つの民が北から来る。大きな国と多くの王が地の果て果てから奮い立つ」 41節

①すでに50：9～10で示した通り、エレミヤの時代の歴史とは食い違う。

②患難期における大バビロンと反キリストの滅びの預言。\*関連 イザ13：1～5

### 3.エドムを滅ぼす神の裁き

(1) バビロンに下る裁きが、エドムの裁きと同じ言葉で語られる。49：19～21

①エドムの民は、イスラエルの親戚でありながら、イスラエルの敵に加担し、イスラエルの民を捕虜として敵に売っていた。オバ1：10～14

②バビロンとエドムは千年王国の間、荒廃が定められた国である。

(2) 神の裁きは獅子の力をもってバビロンに襲いかかる。

### 4.震えあがる異邦人たち

(1) 全世界がバビロンの裁きの知らせを聞いて、震えあがる。

(2) バビロンの罪の根源はプライド（傲慢）の罪。

①言い換えれば、自分に神は不要だという態度。

②神こそ最終的な主権者である。③それを認めない者の最期は悲惨である。

## ◆まとめ：「高ぶる者」バビロンの悲劇

### 1.「高ぶる者」にならないために

①自分の中にあるプライド（高慢）に気づき、告白する者は幸い。

②多くの人々は神など必要ないかのような生活を送り、時に偶像や偽メシアさえも、自分の思いのままに利用できると思っている。

③神に対する高慢な態度を無意識であるならば、それは神の目から見れば罪人である。

2.「岩なる」イエスに立ち返れ ～ハバクク1章より神の確かさを味わう